

11月は人権啓発強調月間 「みなみ・にこにこ人権フェスティバル25周年記念大会」 を開催します

(テーマ) ～ ² ⁵ にこフェスで もっと広がる 笑顔の輪 ～

同和問題をはじめとする人権問題を解決するためには、私たち一人ひとりが、「人権は自分自身の生活に深く関わる自らの課題」との認識を持ち、それに対する理解を深めることが必要です。

美波町では11月を「人権啓発強調月間」と定め、11月23日(木・祝)に日和佐公民館において「第25回みなみ・にこにこ人権フェスティバル」を開催します。みなさんの身の回りにおける人権について学んでみませんか？



ご参加お待ちしております。

人権啓発映画会の開催について

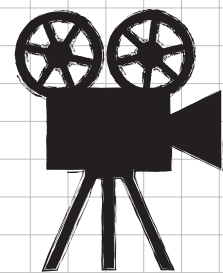


美波町人権教育協議会では、映画をとおして人権問題を身近に考えていただくための、人権映画会を開催します。みなさまお誘い合わせのうえご来場ください。

日時：令和5年11月11日(土)
13時30分開場 14時上映開始
※入場無料・予約不要
場所：日和佐公民館 3階大集会室



なぜ自分の故郷を語れない。
なぜ好きな人に気持ちを伝えることができない。



◎ 物語 ◎ 瀬川丑松(間宮祥太朗)は、自分が被差別部落出身ということを知り、地元を離れ、ある小学校の教員として奉職する。彼は、その出自を隠し通すよう、亡くなった父からの強い戒めを受けていた。

彼は生徒に慕われる良い教師だったが、出自を隠していることに悩み、また、差別の現状を体験することで心を乱しつつも、下宿先の士族出身の女性・志保(石井杏奈)との恋に心を焦がしていた。友人の同僚教師・銀之助(矢本悠馬)の支えがあったが、学校では丑松の出自について疑念も抱かれ始め、丑松の立場は危ういものになっていく。

苦しみのなか丑松は、被差別部落出身の思想家・猪子蓮太郎(眞島秀和)に傾倒していく。猪子宛に手紙を書いたところ、思いがけず猪子と対面する機会を得るが、丑松は猪子にすら、自分の出自を告白することができなかった。そんな中、猪子の演説会が開かれる。

丑松は、「人間はみな等しく尊厳をもつものだ」という猪子の言葉に強い感動を覚えるが、猪子は演説後、政敵を放った暴漢に襲われる。

この事件がきっかけとなり、丑松は決意を胸に、教え子たちが待つ最後の教壇へ立とうとする。

ウミガメ No.23 News Letter

「グレア」の影響

前回では、砂浜がここに在ることをウミガメに気づいてもらえていないのではないか、というお話をしました。ウミガメは月星の光で夜でも砂浜が薄明るく見え、一方、その背景は山や木々などで暗く見える場所を好んで産卵上陸するという報告があります。美波町では、皆様のご理解とご協力で毎年5月20日から8月20日のウミガメ産卵保護対策期間中に、夜間の大浜海岸への立入禁止、周辺での街灯の消灯や遮光、自動車の通行規制をさせて頂いています。おかげで、保護期間中の大浜海岸は暗く静かな環境になっています。ウミガメ保護監視員の皆さんと一緒に、ウミガメの上陸を待っている時に夜空を見上げると、美しい星空、よく晴れた日には天の川も綺麗に見えています。ただ、美しい星空は浜から海を見た方向に広がっていて、振り返って町を見た方向の夜空には、見える星の数が少なくなっています。これは天文観測の分野では「グレア」と呼

ばれる現象で、空気中に漂う細かな塵や水の粒子に人工の光、特に空に向かって漏れる光が反射して起きる現象です。人里から離れた場所で、天文台の設置や天体観測が行われるのはこの「グレア」の影響を避ける為です。そこでウミガメが夜の砂浜を見つける時に、この「グレア」の影響を考えてみました。初めに、ウミガメが産卵上陸する時に砂浜が薄明るく背景が暗い場所を好むと紹介しました。この「グレア」の影響があると、砂浜より夜空の方が明るくなり、産卵上陸しない、またはここに砂浜があると気が付かないのかもしれませんが。人が生活する場所には、夜間の照明が必要です。しかし、ウミガメの生態を人の都合で変える事はできません。「ウミガメの聖地」美波町として、どちらかを諦めるのではなく、ウミガメと共存するために人が出来る事は何かを、引き続き考えて行きたいと思えます。参考になるものとして、良好な照明と自然環境との共存の為に環境省が作成した「光害(ひかりがい)対策ガイドライン」があります。この中には、ウミガメなど野生生物への環境だけでなく、農作物・家畜、交通の安全から人の健康まで含めた、良好な照明環境が示されています。これを参考にして、町の照明や景観を維持しながら、綺麗な星空を見に来る観光客や大浜海岸で産卵するウミガメが、多く美波町を訪れてもらえたら良いなと思います。(館長：平手康市)

うみがめについての質問をお送りください。お答えします！
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐浦369 うみがめ博物館カレッタ「質問係」



応募フォーム

Question

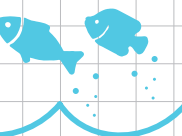
アオウミガメは青くないのに、どうしてアオウミガメと呼ぶの？

Answer

アオウミガメの英名はグリーン・タートル(緑のカメ)です。これは体の中の脂肪が緑色がかかった灰色をしていることに由来します。日本名も同じ理由ですが、日本語では緑色を「あお」と呼ぶ習慣があり「あおうみがめ」の名前が付けました。

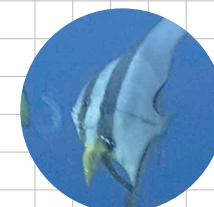
みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します！



ツバメウオ

美波町沿岸で夏から秋にかけてツバメウオが見られます。インド洋～西部太平洋の温暖な海に生息しています。同じ仲間にアカククリ、ナンヨウツバメウオ、ミカツキツバメウオがいますが、日本の九州以北の沿岸に成魚としてよく現れるのはこのツバメウオです。未成魚は背びれ、臀びれ、腹びれが黒っぽくて長く、その姿が翼を広げたツバメに似ていることが名前の由来ですが、成長すると長いひれは目立たなくなり丸い姿になります。成魚は40cmほどまで成長し、時には100個体以上の大きな群れを作ります。幼魚は枯れ葉の様な姿でパッと見では魚とは思えません。しかしその幼魚に出会う機会はめったになく、たまに見つかる幼魚はほとんどナンヨウツバメウオです。遠い南洋の沖縄あたりで生まれて海流に乗って美波町にやってくるのかもしれませんが。それにしてもツバメウオの幼魚たちはどこにいるのでしょうか。(ダイバー：長楽美保)



クラゲを食べるツバメウオ(甲殻類、藻類なども食べる雑食性)



大人になる一歩手前の未成魚



好奇心旺盛でダイバーから吐き出されたエアの泡を追っている様子